

宣教師の目に映るキリシタン大名の信仰

これまでの墮落した生活を一変し妾女、快樂、非道、不正義、残忍、そのたの悪にそまった生活を放棄した。こうしたことは彼らの聖なる教えに光彩を放たしめ、異教徒たちが彼らの教えについて抱いている評価を高めしめた。貴人たちの一部の者はキリシタンに改宗せぬ者は貴族に非ずとさえ言う始末であった。これら受洗した者の内には、関白の顧問を勤める一人の貴人がいた。彼は優れた才能の持ち主であり、それがために万人の尊敬を一身に集めていた。関白と山口の国王（毛利輝元）との和平は、この人物を通じて成立したのであり、彼は播磨の国に非常に多くの俸禄を有している。

彼は多くの高貴な侍たちを説得しようと堅く決意しているが、彼はその多大の権威を持つ者であり、事実、後になって、彼らが期待していた以上の熱心さでそれを遂行した次第は先になってのべられるでしょう。彼の心を最初に動かしたしたのは海の総司令官アゴスチノ（小西行長）であり飛騨蒲生（氏郷）殿とジュスト（高山右近）が、彼を洗礼に導いたのであった。この貴人は小寺シメアン官兵衛と称した。ルイス・フロイス 完訳フロイス日本史

天を想う生涯 守部喜雅より引用



この本を希望者にプレゼントします。

応募券をハガキに貼り
住所・氏名 電話番号を明記のうえ
下記にお送りください。

定期集会

- (日) 礼拝と学び 10:30~12:10
教会学校 13:30~14:30
夕 拝 19:30~
(水) 聖書の学びと祈祷会 19:30~
(金) 聖書の学びと祈祷会 10:00~

〒213-0023 川崎市高津区子母口766

編集

日本同盟

子母口キリスト教会

発行

基督教団

e-mail shibokuchi@church.jp

牧師 小岩井 信

http://shibokuchi.church.jp/

電話 044-766-0181 F A X 044-766-2157

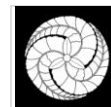
子母口キリスト教会

チャペル通信

2014年 キリシタン黒田官兵衛特集 90号

そればかりでなく、患難さえも喜んでいきます。それは患難が
忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた
品性が希望を生み出すと知っているからです。ローマ書5章3-4

土牢の試練と忍耐。そこに希望の藤の花



NHKドラマ軍師官兵衛も後半に入り、毎回戦いの場面になると思いますが、キリシタンとしての官兵衛もそぞろ表現されています。

1549年にザビエルが鹿児島に上陸してから50年、当時の人口の6%にあたる50万人のキリシタンが日本にいました。織田信長は安土に教会を建てる許可を与えました。オルガンチノと言うペアデレ（ポルトガル語を伴天連と表記しました。）がドラマに登場していました。安土にはセミナリオ（学校…ゼミナール）が建てられ音楽・絵画など当時のルネサンス文化が伝えられ、日本の中でそれが融合していくという文化状況にもなっていました。日本人の死生観を根底から変える、キリスト教が短い時間のなかで、かくも浸透していったのはなぜでしょうか。ドラマをみながら、高山右近・官兵衛・だし（荒木村重の妻）小西行長らの言動の中に当時の庶民の心をとらえたキリスト教の教えの根本である、福音（ふくいん…よきしらせ）を感じて頂きたいと願っています。ドラマ軍師官兵衛のテーマは愛と赦しです。十字架こそ愛と赦しの象徴です。

これからキリシタンシリーズということで、紹介して行きたいと思っています。官兵衛は秀吉の軍師として、九州攻めに参加し、九州のキリシタン大名と戦っていきます。九州攻めのさなかに秀吉は伴天連追放令を発し激しい弾圧が始まります。その弾圧の中で、信仰を守り殉教した信者が多くいることも歴史の事実として紹介したいと思っています。

黒田官兵衛（如水）を巡る キリシタンの世界 その1

ザビエルを世界宣教に駆り立てた聖書のことば

人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたらなんの得がありません。（マタイの福音書16章28節）

1517年から始まった宗教改革の動きに呼応し、カトリックの側も覚醒運動がはじまり、ポルトガルの王侯貴族の**ザビエル**は上記の聖書のことばに触発され、ロヨラの始めた、**イエズス会**に加入しインドの伝道に派遣されました。ゴアで日本人ヤジロウと出会い日本伝道に出発しました。1549年8月15日鹿児島島に上陸、日本の皇帝に拝謁しようと京都に赴きました。応仁の乱以後の京都は荒廃しており、失望したザビエルは山口と府内（大分）で伝道し、2年で中国伝道に夢を託し出国しましたが、入国を果たせずそこで病死しました。

右のザビエルの絵は大阪府茨木市千提寺（**高山右近の領地**）で1920年に発見されたものです。



高山右近に導びかれ、官兵衛はキリシタンに

官兵衛の信仰の導き手は、高山右近との出会いによる。右近の父がキリスト教に会い洗礼を受け、ヴィレラやロレンソ了齋を招いてやがて家族も洗礼を受けます。右近13歳でした。右近親子はキリスト教の協力者であった和田惟政に仕えていました。惟政は**荒木村重**に敗れました。惟政の子が右近親子暗殺を企てた時に、村重が右近を助けたので右近親子は村重に仕えました。命を粗末にせず戦国に生き延びる考えは、キリシタン大名の証しでした。村重の信長にたいする謀反の際、右近は高槻城を大名の身分を棄てても領内のキリシタンの命を守ったのでした。ドラマで**官兵衛**が右近に遭う場面はキリシタン農民の葬列の場面でした。

民衆を手厚く葬るキリシタン

当時農民を棺に入れて埋葬する習慣は無かったのですがイエズス会の宣教師は平等に納棺して埋葬したのです。茨木市千提寺にも粗末ながら墓石が置かれたキリシタン墓地が残っています。



千提寺にある
キリシタン墓跡

だし（荒木の妻）の信仰と村重の生涯

村重の領地摂津（今の大阪）には多くのキリシタンがいました。高山右近は村重の家臣でしたから、村重の近くには多くのキリシタンがいたと推測できます。ドラマでは**だし**が、**礼拝堂で十字架の前で祈っている**場面がありました。遠藤周作は、だしをキリシタンとして小説「反逆」の中で扱っていたようです。（雑賀信行・キリシタン黒田官兵衛より）だしは夫の謀反から有岡城が落ちる時に武士の妻として自害しようと一瞬短刀を手にしましたが、自害しませんでした。キリスト教では、自殺は罪ですから思いとどまったのでしょう。

村重は茶器をもちだし有岡城を捨て逃げだしましたので、怒った信長は村重一族を京都市中を大八車にのせて引き回し、六条河原で惨殺しました。だしは「消ゆる身は 惜しむべきにもなきものを 母の思いぞ障りとはなる。」という辞世の歌を詠みました。だしは母親として幼い我が子を召使いに託しました。この歌は当時の宣教師**フロイス**も「日本史5」で紹介しています。



千 利休はキリシタンだった?!!

持ち出した茶器とともに**村重**は比叡山や毛利氏のもとで生き延び、信長が本能寺の変で自害したのを機に堺に行き、そこで千利休と親交をもち、茶人となり利休十哲と言われています。千利休のもとで**村重**はかつての裏切りを自傷的に荒木道叢と名乗りました。ちなみに七哲の中で高山右近・蒲生氏郷・芝山監物・牧村兵部・細川忠興の5人がキリシタン大名でした。かつての謀反人、右近と茶室で平和のうちに茶がいただける。そこに赦しの福音があります。かつて利休の茶道の所作のなかで、もてなす心・仕える姿をあらわしています。茶人は帛紗（ふくさ）を腰につけて客をむかえます。イエス・キリストは最後の晩餐の前に弟子の足を洗うために手ぬぐいを腰にまいたと聖書に記されています。弟子に仕える師の動作をペテロはイエスさまが十字架にかけられ復活したときに本当の意味を知りました。詳細は「**茶の湯の心で聖書を読めば…高橋敏夫著 いのちのことば社**」をご覧ください。（教会で貸し出します。）キリシタンが禁止されて、キリシタン資料はこの世から抹殺されていきます。利休がクリスチャンであったとは文献では実証できませんが、「福音」と通じる茶道に利休の心を味わってみてください。



村重所有の茶器